

空調タイムス

THE AIR-CONDITIONING TIMES

321水

2018年〈平成30年〉

週刊

第2721号



小川 宜裕係長

熊本赤十字病院（熊本市東区）は、1944年（昭和19年）創立。25の診療科と490床の入院施設を持つ県下屈指の高度機能病院。1999年に大規模な増改築工事を実施、2014年に配管の劣化対策として日本システム企画（社長＝熊野浩行氏、本社・東京都渋谷区）が開発した赤錆防止・更生装置「NMRパイプテクター」を導入、顕著な効果が確認され、2016年には全ての配管に同装置を設置した。

熊本赤十字病院総務課施設係長・小川宜裕氏は「当院は基幹災害拠点病院の指定を受けており、高度医療機能を備えた総合病院として日々医療活動に携わっている。高度医療施設として天井などからの漏水は厳禁。ワー

ストシナリオ発生の前に配管の腐食対策実施は必須。しかし、配管の更新はコスト的にも時間的にもそれぞれ大きく改善が配管内の水の分子と共鳴して水和電子を生み、これが赤錆と結合することで黒錆に還元されるといふメカニズムだ。これまで集合住宅、病院、介護施設、商業施設、学校、ホテル、旅館、宿舎、公共施設、工場など数多くの建物に導入されたため、配管更新となる数多くの工事費がかかる。また、老朽化した施設海外では英国パッキンガム宮殿に同装置が取り付けられたことで一躍その名を知られるところとなった。ほかにも

空調配管劣化対策で顕著な効果

導入事例 熊本赤十字病院（熊本市東区）

も非常に困難。そこで検討を始めたのがパイプテクターだった。これまでの納入実績や導入前後の調査・検証内容など総合的に判断してこの装置が最適との結論に至った」と説明する。

導入前に行った空調温水の外部検査機関による水質検査では鉄分が12.3mg/lだったのが、パイプテクター設置2週間後に0.07mg/lに減少、

赤錆防止・更生装置NMRパイプテクターとは一体どういうものなのか。配管内での新しい赤錆の発生を止め、既存の赤錆を不動態（金属表面に腐食作用に抵抗する固い結晶酸化被膜が生じる



熊本赤十字病院



パイプテクターの取付状況（熊本赤十字病院）
※導入2週間後に空調温水中の鉄分が0.07mg/l（導入前12.3mg/l）に減少し、顕著な効果が認められた。（数値はいずれも外部検査機関の検査による）

2018 九州市場春季空調冷熱特集